

## 第2回みやぎ観光振興会議仙南圏域会議 委員発言要旨

### ◆ 一條委員

- ・宮城県は、これから仙台市も含め人口減少により予算も減少するので、少ない予算をいかに効果的に配分するか観光課には考えてもらいたい。PR動画のようなものに多額の資金を使ったり、韓国にオルレの名称の使用料を払ったり、そういったものにお金をかけるのではなく。
- ・最近の感染者数増加の報道によって、キャンセルが非常に多くなっている。首都圏からのみではなく、仙台や福島・岩手・秋田など近県からのキャンセルも増えている。マスコミの報道の影響が大きく、どうにかならないものか。
- ・これからの観光については、パワースポットや御朱印といったものがとてもはやっているので、神社やお寺に若い人がもっと来られるようにPRしてはどうか。
- ・昨年の台風19号や九州の大雨被害のように、被害がでないような事前対策も大事。

### ◆ 伊藤委員

- ・どこの圏域でもワーケーションやマイクロツーリズムといったワードが出てきているが、そもそも我々のエリアが得意としていたもので、それが新しい言葉になって出てきているだけと思っている。
- ・国内の観光需要は縮小してきているが、それを奪い合うのではなく、しっかりと掘んでいくためには、軸を持った観光振興に取り組んでいかなければならない。
- ・東京のある企業（コントロールセンター機能を担い、人を動かす立場で、東京で働く必要がない。ネット環境さえあれば仕事ができる企業）がワーケーションの体験ということで、社員30人を先日案内した。そのうち、こちらに住んでも良いという人が8人おり、確認したところ4人が仙南に移住を決めたとのこと。
- ・観光だけでなくビジネスということでも、ワーケーションや移住の希望者は都会にはまだまだいると思われ、そういった方々への情報発信や情報のどこをどのように繋ぐかが重要。

### ◆ 今井委員

- ・国道沿いではない道の駅としては、仙南の周遊ルートなどに乗かって人を呼び込みたい。着地型にはなりえないと感じている。
- ・角田市では道の駅の健康拠点化を進めており、ウォーキングステーションの認定を受けた。ある企業が興味を持っており、包括協定を結んで進めて行こうとしており、その動きが広まっていけば「スポーツツーリズム」としての集客促進の可能性がある。
- ・コロナ報道については、マインドが大事。
- ・宮城県の観光PRが飛び道具ばかりで実を伴っていないという話があったが、広島県の瀬戸内レモンのPRが実需にも繋がる良いPR事例であった。本当の利益にどう結びつけるか、うまくコントロールする必要がある。

### ◆ 大宮委員

- ・弊社の事業はアクセスが主体なので、地域間の小さなものを結んでいき、それが大きなものとなり、

誘客に繋がっていくものと思っている。

- ・バスの乗車も少なくなっているが、地域の各コンテンツを皆さんに作っていただき、それを繋いで行くというのが必要ではないか。
- ・小さなバス会社としては、地域間の日頃無いアクセスを開拓しながら、地域間を結んでいくという役割だと思っている。
- ・今ある良いコンテンツを結びつけながら、アクセスの問題が出てきたら一緒に協議しながら進めていければ。
- ・他圏域の会議での発言をみると、大崎でも石巻でもやはり最終的にはアクセスが問題になる模様。なので、コンテンツで仙南を結んでいくという流れで誘客していきたい。

#### ◆ 小野委員

- ・街に元気がないので、新幹線の利用客も戻ってきていない。首都圏からの移動が解除になった際は若干増えたが、まだまだの状況。
- ・安全・安心を前面に押し出していかないと、客は二の足を踏んでしまうと思う。
- ・今後コロナが落ち着くことを前提として話をすると、首都圏からの客に、仙南の温泉やホテルを紹介すると、HPを見て「こういうところもあったのか」と再発見していただける客も多いので、今の状況をきっかけとして発見していただく機会を与えるのも大事。
- ・仙南の駅として“宣伝”で貢献していきたい。

#### ◆ 小野寺委員

- ・感染者増によってまた元に戻りつつある。
- ・自粛期間が長く、近場で行き先を探す方が多いと感じた。多く聞かれたのは、どういった対策をとっているかということ。
- ・企業の安全対策の取組をもっと発信してくれる仕組み、一目で分かるものがあれば。
- ・買い物に行くよりもECサイトで購入したいという人が多く、注文が増えている。
- ・民間でECサイトを立ち上げている企業が増えてきているが、それが安心できるECサイトなのか不安。安心できる機関がECサイトを立ち上げてくれると安心感が違うし、手数料も安くできるのでは。
- ・インバウンドでは観光はまだまだ戻らないと思うが、仕事で来る方を広告塔として活用できないか。安心安全な宮城を伝えて、SNS等で拡散してもらえれば。
- ・観光で大事なものは“食”の分野。ガイドラインに従うと席を減らさなければならず、人が入っても売り上げは伸びない。そういったところへしっかりとした支援を。

#### ◆ 笠原委員

- ・各圏域とも共通している意見がかなりあるが、観光的な分野と、観光を超えた社会のあり方的な分野の意見があり、分けて考える必要。
- ・観光の対策で早くはじめられそうなものについて、
  - ① 消費者の旅行意欲も下がってきているので、身近な人を対象にした取組が必要。県には、宮城県民に県内を回ってもらうようなキャンペーンをやってもらえないだろうか。かつてのディスカバージャパンならディスカバーみやぎ、GoToならGoToみやぎなど。

各地域の掘り起こしも重要なので、市町村でコンテンツを整理して発信してもらう必要がある。  
仙台圏域会議の意見にもあったが、地元の人に地元の良さを知ってもらうことが重要。

②インバウンドは目的を大事にしていく必要。目的は国際交流だと思うので、そういった視点で事業を掘り起こして、インバウンドにつなげていく必要があるのではないか。留学生との交流から始めて、地域で国際交流をやっていく必要があるかと思う。

◆ 佐藤（勝）委員

- ・今後の施策としては資料にある程度でよいのでは。
- ・我々としては地域の観光資源の掘り起こしを行っており、地域にあるものを見ていただく、買っていただくことにつなげる必要。
- ・丸森でオルレができないか実際に歩いてみたり、磨けば光るものを探している。
- ・町内に猫神様が80箇所あるが、何故それほどあるのかはまだよく分かっていない。今回、猫のイラストはがき5種類を作成。
- ・先ほど話が出た御朱印帳だが、仙台の瑞鳳殿の御朱印帳は丸森産の和紙を使用して作られている。丸森町でも猫神の御朱印帳を作った。
- ・地域のものを地道に磨いていくことが大事。

◆ 佐藤（幸）委員

- ・7月19日（日）から町の支援金を活用し、遠刈田温泉で5割増宿泊券を販売。仙台牛の販売不振もあるので、町内の畜産農家の支援の意味も込めて、各旅館で仙台牛を提供。宿泊客に応募してもらい、年末に町の特産品を送る取組も企画。
- ・前回の会議で留学生が困窮していると聞いて、早速、宮城県国際化協会に仙台の学校を紹介してもらい、9～10月頃に温泉や伝統文化体験をしてもらい、遠刈田温泉を知ってもらう取組を企画。国に戻ったときに遠刈田温泉のいいところを伝えてもらい、今後のインバウンド需要につなげられれば。
- ・当社では客室にWiFiを整備したが、電波が弱いところも。再度、WiFi環境整備に投資する必要。
- ・外部の方のお話を聞きながら、集客していく。同じ方向に向かっていきたいなと思っている。「今の観光協会が何もしてくれない」といって、みんなそれぞればらばらでやっちゃっているのだから、そこをまとめられたらと考えている。

◆ 四竈委員。

- ・6月の県境をまたいで移動自粛解除を受け、回復傾向に期待したが、期待からはほど遠い。7月23日からの4連休は若干増加傾向だが、非常に経営に苦慮している状況。
- ・地道に積み上げてきたものが、ここ数日の感染者数の増大を受け、振り出しに戻ってしまった。
- ・国、県、白石市による支援事業がいくつもあり、利用客は訳が分からない状況。館内にそれぞれの事業を分かりやすく説明し、張り出している。
- ・スマホからでしか申し込めないとか、一斉発売後すぐに売り切れるなどでは公平性が感じられない。お年寄りでも誰でも申し込めることが必要。

◆ 嶋崎委員

- ・回復とはコロナ前に戻すことではない。価値観も変わるし、コロナ以外のリスクもある。ビジネスモデルを変えていく必要がある。
- ・安全安心を言葉で言うのは簡単だが、体現するのは難しい。いくら発信しても、マスコミの一言で崩れてしまう。
- ・ワクチンや治療薬ができるまでの1年から1年半は、波があることを受け入れ、短期と中長期に分けて考える必要。
- ・短期的にはマイクロツーリズムというが、大規模ホテルは県内客だけでは採算を確保できないのが現実。ワーケーションや、ECも含めた外販なども検討していく必要。
- ・回復戦略の概要「視点3（1）みやぎにしかないアドバンテージ（東北DC、東京オリパラ、復興10年）を活かす」とあるが、誰に対してのアドバンテージなのか。絵に描いた餅にならないようアドバンテージをしっかりと考えてもらいたい。

#### ◆ 鈴木委員

- ・コロナによる自主規制は継続している。
- ・回復戦略については、総花的ではなく、ターゲットを絞り検討する必要。
- ・鎌先温泉は、木村屋旅館の廃業により温泉街としてのパワーが弱まっている。この後にどんな企業が入ってくるのか不安。行政の協力を得ながら前向きに旅館経営していきたい。

#### ◆ 藤田委員

- ・南蔵王やまびこの森がオープン。モニター募集したが「七ヶ宿はどこ？」という声もあった。
- ・まずは七ヶ宿町を仙南地域と認識してもらうことから始めなければならないと感じた。さらに、宮城県に来て、山の上（七ヶ宿）まで来ていただく環境を整備していく必要。
- ・行政には、各種支援事業の申請書類について、様式を統一するなどフォーマットを作成してもらいたい。コロナ関係のアンケートも多数の機関・部署から来るので、ひとつの回答を共有してもらいたい。

#### ◆ 笹出委員

- ・回復戦略は、観光業の方々が一定期間耐え忍ぶことができるように、どのような施策をとるのかということが求められていること。
- ・まずは県民をどう動かすかという仕組み作りが必要。
- ・県内需要だけでは足りないという話があったが、福島県や山形県など隣県も同じ状況。隣接県と相互に連携するような施策をぜひ検討していただきたい。

#### ◆ 宮原委員

- ・前回の会議での意見を踏まえて、早速、具体的に取り組んでいる方もおり大変よかった。
- ・宿泊、交通など仙南の中での観光の連携をもっと強くしていく必要。みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議もそういった広域観光を進めていくための会議体だが、連携についてはうまくいっていない部分もあるので、皆で意識していければ。
- ・これだけいろいろな観光関連事業者が一堂に会す会議は、貴重な機会なので、具体的なプランが出てくるのは非常に良いこと。

- ・県の会議は、計画を策定するので仕方が無い面もあるが、現場の具体的な声をまとめて計画に落とし込んでいくと、段々とどこにでもあるようなありきたりの言葉になってしまう。現場の声をあまりまとめないで、本当に必要で具体的なものを残さないと計画ができた時に何をすべきかわからなくなってしまう。
- ・今回何か突破口を見つけるような言葉が計画に出てくるとよいと思う。現場の声をならさないで、拾い上げてもらいたい。

#### ◆ 嶋崎委員

- ・こういった会議では、“連携”という言葉が必ず出てくるが、漠然としたイメージしかなく、具体的にどういうことか。

#### ◆ タケヤ交通 鈴木顧問

- ・連携という点でタケヤ交通が地域で取り組んできたことを紹介。
- ・みちのく公園と連携し、まずはみちのく公園に少しでも多く誘客できるように、次には仙台からより多く集客するために、途中にある秋保温泉旅館組合の方々と一緒になって路線を引くというひとつの目標に向かって走り始めた。
- ・今現在は、仙台西部の観光素材を抽出し、旅行会社、バス会社、宿泊施設、観光施設の各施設がきちんとした収益構造が造れる前提の基に連携している。
- ・まずは仙台から客を呼び込む。こちらから仙台に行くという双方向もあり。

#### ◆ 伊藤委員

- ・DMOは単体では何もできない、地域の皆さんと一緒にないと成り立たない企業。
- ・会社が儲かるというよりは、地域に客を連れてきて、地元に還元することがやるべきこと。皆にメリットがあるのが連携の意義。地域との間を繋ぐことが連携だと思っている。

#### ◆ 嶋崎委員

- ・具体論を議論する場が大事。県の会議では方針を描いて終わりということが多い。
- ・このような非常事態なので、県で場をセッティングするとか、仙台から実際に人を連れてくるためにはどこどこがどう組んだらよいのか考える場を作るなど、具体的なものが必要。

#### ◆ 一條委員

- ・みやぎ蔵王ブランドという名前がつくからには、ブランドにもっていくためにこうしようという具体的なものが必要だし、皆さんの意見を聞いただけでは何も進まない。

#### ◆ 宮原委員

- ・仙南をどうしていくのか、実際にアクションがないとうまくいかないところがあると思う。
- ・連携というのは、皆さん同士が知り合い、それぞれの得意分野を持ち寄って、無理のない範囲で組み合わせられていって少しずつ実行に移していくというのもありではないかと思う。
- ・ブランド会議16年やってきたがそういったものが生み出されてこなかった。この会議をきっかけに、

なにか生み出せるような場になっていければよいと思う。

◆ 大宮委員

- ・先ほどから、地域間の連携や、“結ぶ”と言っても、なかなか具体的な方向性が分からないといった意見が出ていたが、今集まっている皆さんの間でワーキンググループを立ち上げて、事細かにグループ分けして検討し、最終的にこの会議で報告することが、今後の商品化にも繋がっていくのではないかと。具体的に踏み込んで取り組んで行くのが仙南圏域としては望ましいのではないかと。単にプラン作成で終わるのではなく、まずは具体的に、モニタリングでもよいのでやってみようということを考えていただければよいのでは。

◆ 宮原委員

- ・仙南圏域として、ただ会議を開いているだけでなく、実際にアクションを起こしていく取組をしてはどうかというご提案をいただいた。
- ・本日の会議で出た意見のなかでも、ECの関係では、地域の逸品や仙南の生産物などをECを活用して発信していくといったことや、マイクロツーリズムの関係では、昔JRが「駅長おすすめの小さな旅「ちい旅」」という商品がありファンも多かったが、そういったものと地元のお菓子屋をつなげるなど、仙南の小さな観光がいくつかできてくると、具体的な取組になっていくのではないかと。思う。
- ・今までできなかったもので、こういった機会にできたらうれしく思う。